

20周年に向けて、心新たに

日頃より、NPO 法人道の活動にご協力賜り、心より厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの蔓延の未だ収まらぬ中、皆様ご無事でお過ごしのことと存じます。このような皆様それぞれが厳しい状況の中において、絵画やカレンダーのご購入、賛助会費や寄付などで温かな心をお寄せ下さった多くの方々に支えられて、とても有難く感じた次第です。

このコロナ下の一年で道の様相も一変しました。事業所はこの3月まで通所と在宅作業の両方に対応してまいりました。在宅を選んだ方も当初こそ通所する労力が減り喜んでいた方も居ましたが、徐々に飽き足らなくなり、少しずつ通所をされる方が増えてきました。この4月になり原状にほぼ回復しましたが、やはり人と人が直接会うと相互のエネルギーが増幅されるのか、事業所内が活気に満ち元気が出てくるようです。直接会うことの大切さを改めて感じているところです。理事の大野健一氏が以前、氏の後輩でテレビ（オンライン）会議の達人であるソフトバンクの孫正義氏にその成功の秘訣を尋ねたところ、「前の晩に直接会って飲みながら話をすることだ」と応えたとのことですが、さもありませんと頷ける話です。

コロナ流行の前に「道ギャラリー」をオープンしていたことは不幸中の幸いでした。3月から休廊していましたが、1回目の緊急事態宣言終了後の6月18日より感染防止対策をした上で、時間も短縮して再開しました。公共機関などで開催もしくは参加予定であった展覧会がすべて中止となる中で、道ギャラリーの存在は、作品発表のできる場として制作活動を仕事としている利用者にとってモチベーションを維持していく上で大変大きなものでした。

来年4月には道の創立20周年の節目を迎えます。昨年度は、長年勤めてくれたベテラン職員の退職に続いて病気やその他の事情で計3名の常勤職員が退職することになり、代わりに4月に新たに美大出の新卒の2名を迎えることになりました。これにより職員の大半が20代になりました。私はそのことをとても楽しみにしています。20代の頃は当然未熟な部分もありますが、明治維新という大きな変革も20代の青年達によって為されたように、一番エネルギッシュで生命力に充ち満ち溢れているからです。

伊勢の神宮は飛鳥時代より現在まで約1300年間、ご遷宮とって20年に1度今ある社殿のすぐ隣に全く同じものを造り替えてきました。つまり1300年前の一番古い様式でありながら常に一番新しいという矛盾を同時に成立させている訳です。それを常に若々しい、「常若」の思想と言います。

道は20周年を前にして「常若」であり続ける為の造り替えの時を迎えています。その基本となる思いは常に一貫してあり続けながら、若々しく瑞々しく生き活きと新たな道が既にスタートしています。

(岩立)